

科目ナンバー	PSY-3-006-sn			科目名	社会文化心理学		
教員名	奥田 雄一郎			開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
概要	大学生である皆さんの周りには、様々な“文化”が取り巻いています。たとえばそれはアメリカと日本といった国と国の“文化”，偏見や障がいといった社会の中での“文化”，ギャルとオタクといった集団の“文化”，そして「わたしとあなた」といった個人間での“文化”。文化と呼ばれる現象は、様々なレベルで私たちを多重に包み込んでいます。グローバル化の進んだ現代社会においては、こうした様々な文化の中でどれか一つの文化に留まり続けるのではなく、様々な文化間を移動していくことが要請されます。 社会文化心理学ではこれまで“文化”ということをキーワードとし、4号館* KYOAI COMMONSにおいて、若者たちの、本学の学生たちの文化を創るための実践を行ってきました。2012年度からの5年間の活動を経て、2017年度からのテーマは「まえばし」です。本学のある「まえばし」というまちには、どんな場があり、どんな文化があるのでしょうか？そして、そうした「まえばし」というまちにおいて、どのような若者文化を創る事ができるのでしょうか？ 本講義においては心理学という道具を用いて、こうした問題に取り組んでみたいと考えています。						
到達目標	本講義の目的は以下の3点です。 ①心理学的視点を獲得することによって、自分たちの周りの情報を単に鵜呑みにするのではなく、科学的な視点をを用いて自らの頭で考え、判断して動く力を養うこと。 ②与えられた課題を単にこなすのではなく、学生たち自らが主体的に考え、新たなものを計画し、粘り強く最後までやり遂げる力を養うこと。 ③異なる文化をもつ学生たちによるグループで1つの課題を達成することにより、相手の話を聞き、自分の考えを相手に伝えるといったコミュニケーション力やチームワーク力を養うこと。						
「共愛12の力」との対応							
識見	自律する力			コミュニケーション力		問題に対応する力	
共生のための知識		自己を理解する力		伝え合う力		分析し、思考する力	○
共生のための態度	○	自己を抑制する力		協働する力	○	構想し、実行する力	○
グローバル・マインド		主体性	○	関係を構築する力	○	実践的スキル	○
教授法及び課題のフィードバック方法	①はじめに、大学内において心理学について、文化について、近年の高等教育における学びについての講義を行います。それによってその後行う活動の基本的な知識を学習します。 ②次に、前橋まちなかにおいて現在まちなかで活躍するプレイヤーの方々に講演をしていただきます。 ③その後、グループに別れ、各グループで「学生たちの考える、新たな文化の提案」についてのプレゼンテーションを行います。そのため、主なグループ活動は、授業外の時間を使うことになります。						
アクティブラーニング	○	サービスラーニング	○	課題解決型学修	○		
受講条件 前提科目	・本講義は受動的に“聴く”授業ではなく、学生自らが能動的・主体的に活動する授業であるということを理解した上で、受講してください。 ・15回の授業のうち大半は、大学内ではなく前橋まちなかにおいて行います。 ・グループ活動は、授業外の時間での活動も多くなることが予想されます。そのため、ある程度、授業以外の時間に余裕が無いと難しいかもしれません。 ・土曜日、日曜日、祝日など、講義日ではない曜日を用いてフィールドワークなどを行うことがあります。 ・授業の成果をシャロン祭において研究成果としてポスター発表してもらいます。 ・今年度から履修制限を行います(履修人数制限25名：応募者多数の場合は志望動機用紙を記入してもらいます)						
アセスメントポリシー及び評価方法	授業への参加状況(30%)プレゼンテーション(50%)最終レポート(20%)加えて、ルーブリックを用いた自己評価を行います						
教材	授業に必要な資料は授業時間に配布します。チャットを使ったディスカッションを行うため、スマートフォン、タブレット、PC、Macなどのインターネットに接続可能なモバイル端末を準備してください。						
参考図書	奥田雄一郎 2012 心理学から見た我が国のラーニング・コモンズにおける学びの動向と今後の課題,共愛学園前橋国際大学論集,12,91-103. 山本登志哉 他 2011 ディスココミュニケーションの心理学 東京大学出版会 ウェンガー 他 2002 コミュニティ・オブ・プラクティス—ナレッジ社会の新たな知識形態の実践 (Harvard Business School Press),翔泳社 レイヴ,J. ウェンガー,E. 福島真人(翻訳) 1993 状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加 産業図書 エンゲストローム,Y. 1999 拡張による学習—活動理論からのアプローチ 新曜社 山住勝広 他 2008 ネットワーキング 結び合う人間活動の創造へ,新曜社						

山内祐平 他 2010 学びの空間が大学を変える ボイックス株式会社
 美馬のゆり 山内祐平 2005 「未来の学び」をデザインする一空間・活動・共同体 東京大学出版会
 茂木一司 他 2010 協同と表現のワークショップー学びのための環境のデザイン 東信堂
 中野民夫 2001 ワークショップー新しい学びと創造の場 岩波新書

内容・スケジュール

1週目			
授業学修内容	「オリエンテーション」社会文化心理学という授業の概要、目的、教授法、評価方法などの講義の詳細について、オリエンテーションを行う		
授業外学修内容	授業の内容について、5問程度の小テストに加えて、授業の内容についての感想をメールで提出してもらいます。	時間数	2
2週目			
授業学修内容	「心理学からみた文化という問題」国、社会、集団、個人という様々なレベルで心理学的に検討する。そのことによって、この授業が問題としようとしている問題群を明らかにする		
授業外学修内容	授業の内容について、5問程度の小テストに加えて、授業の内容についての感想をメールで提出してもらいます。	時間数	2
3週目			
授業学修内容	「近年における大学での学び」近年における大学での学びを概観する。その後グループを構成し、フィールドワークの結果を共有し、各グループにおいて他大学での取り組みについてリサーチする		
授業外学修内容	授業の内容について、5問程度の小テストに加えて、授業の内容についての感想をメールで提出してもらいます。	時間数	2
4週目			
授業学修内容	「講演①」地域において、先進的な取り組みを行っている講師による講演を行っていただく。		
授業外学修内容	講演の感想をレポートのまとめます。	時間数	2
5週目			
授業学修内容	「フィールドワーク①」まえばし、という街をフィールドワークし、写真を撮り、フィールドノートにまとめる。		
授業外学修内容	フィールドワークの結果について、グループで結果をまとめる。	時間数	2
6週目			
授業学修内容	「プレゼンテーション①」学生たちの考える、新たな文化の提案についてのプレゼンテーションを行う		
授業外学修内容	各グループのプレゼンテーションを作成します。	時間数	2
7週目			
授業学修内容	「プレゼンテーション②」前回の指摘を踏まえ、各グループで考えた、学生たちの考える、新たな文化の提案についてのプレゼンテーションを行う。		
授業外学修内容	各グループのプレゼンテーションを作成します。	時間数	2
8週目			
授業学修内容	これまでのまとめこれまでの活動を振り返り、その問題点・課題を明らかにする。その上で、今後の予定を立てる。		
授業外学修内容	これまでの活動をグループでリフレクションします	時間数	2
9週目			
授業学修内容	「講演②」地域において、先進的な取り組みを行っている講師による講演を行っていただく。		
授業外学修内容	講演の感想をレポートのまとめます。	時間数	2
10週目			
授業学修内容	「プレゼンテーション③」各グループで考えた、学生たちの考える、新たな文化の提案についてのプレゼンテーションを行う。		
授業外学修内容	各グループのプレゼンテーションを作成します。	時間数	2
11週目			

授業学修内容	「プレゼンテーション④」前回の指摘を踏まえ、各グループで考えた、学生たちの考える、新たな文化の提案についてのプレゼンテーションを行う。		
授業外学修内容	各グループのプレゼンテーションを作成します。	時間数	2
12週目			
授業学修内容	「プレゼンテーション⑤」前回の指摘を踏まえ、各グループで考えた、学生たちの考える、新たな文化の提案についてのプレゼンテーションを行う。		
授業外学修内容	各グループのプレゼンテーションを作成します。	時間数	2
13週目			
授業学修内容	「フィールドワーク②」前橋以外の先進的な取り組みを行っている地域について、フィールドワークを行う。		
授業外学修内容	フィールドワークの結果について、グループで結果をまとめる。	時間数	2
14週目			
授業学修内容	「講演③」地域において、先進的な取り組みを行っている講師による講演を行っていただく。		
授業外学修内容	講演の感想をレポートのまとめます。	時間数	2
15週目			
授業学修内容	「最終プレゼンテーション」学生たちの考える、新たな文化の提案についてのプレゼンテーションを行う		
授業外学修内容	最終レポートを作成します	時間数	4
上記の授業外学修時間の合計		32	
その他に必要な自習時間		58	

Number	PSY-3-006-sn	Subject	Sociocultural Psychology		
Name	奥田 雄一郎 (Okuda Yuichiro)	Year and Semester	First semester for 2020	Credits	2
Course Outline	<p>There are various "cultures" surrounding all of you college students. For example, there is the "culture" of the countries such as America and Japan, there is the "culture" in society such as prejudice and handicaps, there is the "culture" of groups such as "gyaru" and "otaku", and there is the "culture" between individuals such as "me and you". The phenomenon known as culture surrounds us complexly on various levels. In the globalized modern society with these various cultures, we are required not to stay in one of these cultures, but to move among these various cultures. In this course, using psychological knowledge and findings as tools, we will actually experience the movement among the various cultures described above. By doing so, we aim to gain the abilities as college students required by modern society. "Sociocultural Psychology" has performed various practices in the past with "culture" as the keyword.</p>				